

研究タイトル：

## 老人福祉施設の立地に関する研究



氏名：	今岡 芳子 / IMAOKA Yoshiko	E-mail：	imaoka@t.kagawa-nct.ac.jp
職名：	講師	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	土木学会, 日本福祉のまちづくり学会, 環境情報科学センター, 日本都市計画学会		
キーワード：	環境計画、社会性評価、地域都市計画、地域福祉、地理情報システム		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地理情報システム(GIS)に関する相談 (社会性評価や環境評価など調査、評価の分析と可視化など)</li> <li>・中心市街地活性化など地域活性化に関する検討</li> </ul>		

### 研究内容： 主観的評価を用いた最適立地選定の検討

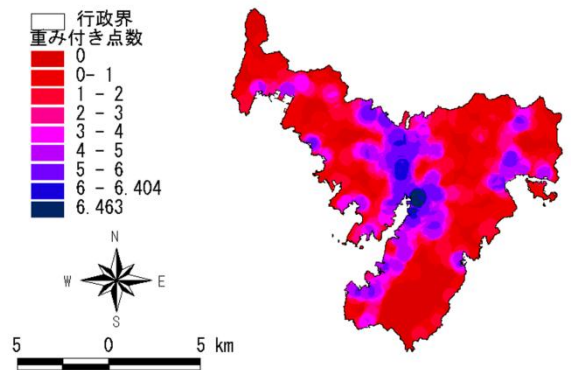
超高齢社会において、高齢者が地域社会において、安心して、充実した生活を送ることができる条件を整え、要支援者、要介護者を極力つらいようにするには、予防重視の医療・福祉サービスだけでなく、快適な住みよい生活環境を整備することが重要となる。そこで、高齢者の使いやすさ、いわゆる利便性の面から、また、災害時における福祉施設の安全性について検討している。

これまでに行った研究では、施設入所者(以下、入所者と略記)が自らの意思で外出する意欲を持つ生活環境を、生活環境を評価するにあたり必要とされる「利便性」に着目し、入所者の視点から評価することで、入所者が施設の周辺環境に求めている生活環境を明らかにしていくことを目的とし検討を行った。さらに、この結果を基に、今後の老人福祉施設の立地候補地の選定を、GIS(地理情報システム)を用いて行った。

この研究の結果、長崎市を対象としたアンケート調査では、入所者は、施設内での生活が確保されているため、施設から外出する必要のない生活環境にありながらも、老人福祉施設の入所者が求めている生活環境は、医療施設、スーパーマーケット、公共交通機関など、在宅で生活していく上で必要最低限の施設と同様の施設が周囲にあり、それに加えてレクリエーションやクラブ活動といった余暇活動の可能な施設が求められていることが明らかになった。また、全体的に入所者の評価が従業者よりも高いことから、入所者が周辺環境に関心があり、施設周辺に各種施設を欲していることが示された。

この調査では、今後の建設という前提の下でアンケートを実施したことで、従業者に生活の面倒を見てもらっているという意識を持つ入所者の要望や希望が、アンケート調査結果に十分に反映されたと考えられる。また、立地選定では、アンケート結果より利便性について求められた心理的情報を定量化し、GISを用いることで地理的に、かつ広域的に評価が可能であり、入所者の意見を全面的に取り入れた選定が可能であることが示された。

この他にも高齢者に関わらず、福祉のまちづくりをキーワードに観光地のバリアフリー調査とそのマップ作成なども行っている。



定量化したアンケートの結果を可視化した一例

### 提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	